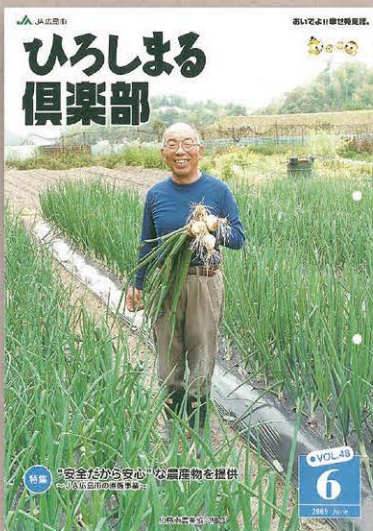


農家 今昔 物語

こいぶみの前身「ひろしまる倶楽部」の表紙を飾ってくださったみなさんを、11年経過した今、再び訪れて「今」を話していただきました。



2009

佐伯区を通る石内バイパスから藤の木団地を超えた山深い場所に大橋さんの圃場があります。大橋さんは現在、レタスやハクサイ、キャベツなど季節ごとに約40品目を栽培しています。就農時に比べ栽培規模は減少しましたが、無理のないペースで野菜づくりを楽しんでいます。

農業は楽しい。 魅力は交流にあり！

佐伯区五日市町 大橋 剛夫さん

大橋さんはかつて中・高校で世界史を教える教師でした。62歳で定年退職し、広島市が行う定年就農者育成事業に応募し農業の道へ。今年で15年目を迎えます。「サッカークラブの顧問をしていたこともあり、体を動かすことがしたかった」と就農の理由を話します。

農業経験がなかった大橋さんですが、自分が食べたいもので、連作障害の少ない品目を見極めながら、栽培品目を増やしてきました。現在は、平和大通りで毎週日曜日に開催されている「ひろしま朝市」に年間を通してほぼ毎週出荷し、自ら店頭で販売しています。冬の売れ筋は「リーフレタスのセット」。3品種の



2020

リーフレタスを彩り良く袋に詰めた商品で、ひろしま朝市に出荷すればアツという間に完売してしまうほど。「おいしかった」「同じものがほしい」「他の野菜はないか」と大橋さんが作った野菜を目当てに、朝市に来られるお客さんもいます。また、大橋さんの圃場には、春は弁当持参の親睦会、秋は芋煮会と農業関係者や農業仲間が集います。

「朝市のお客さんや農業を通じてできた仲間との交流が何より楽しい」と大橋さん。農業の醍醐味を感じながら、これからも野菜を作り続けます。



▲トンボやハンドマルチカッ ▲近くの団地に住んでいる農業仲間と農業談義。ターは大橋さん自作の農具。